文屋やすひで

〔古今和歌集十六哀傷〕深草のみかど明○仁の御國忌の日よめる

草ふかき霞のたにゝ影かくしてる日の暮しけふにやはあらぬ

〔源氏物語一桐壺〕御つかひのゆきかふほどもなきに、なをいぶせきを、かぎりなくの給はせつるを、夜なかうちすぐるほどになん、たえはて給ぬるとて、なきさはげば、○下略

〔源氏物語九葵〕とのゝうち、人すくなに、しめやかなる程に、俄に例の御むねをせきあげて、いといたうまどひ給、うちに御せうそこきこえ給ほどもなくたえいり給ぬ、

〔玉海〕文治四年二月十九日乙酉、内府方女房、帥周章走來、告大臣殿○藤原良通絶入之由、

〔古事談三僧行〕蓮仁靈人本學坊參會吉田齋宮御臨終、令唱釋迦牟尼佛名比盧遮那普賢經文彼文云、一切處處、其佛住處、名常寂光トノ給テ、現咲相令閉眼給、于時祇候之女房等、多年御本懷、已滿足歟、心安候トテ欲立去之處、靈人罷念佛、令唱慈救呪之時宮蘇生、アラネタヤ奉具ユカムト、思ツル物ヲト被仰テ、又小時唱念佛、如眠令氣絶、上人云、是コソ實ノ御終焉云々、

〔源氏物語四夕顔〕まづこの人はいかに成ぬるぞと、おもほす心さはぎに、身のうへもしられ給はず、そひふしてやゝとおどろかしたまへど、たゞひえにひえいりて、いきはとゞまりたえはてにけり、

〔日本書紀十五顯宗〕元年二月壬寅、詔曰、先王○市邊押磐皇子遭離多難、殞命荒郊、

〔日本書紀二十九天武〕九年十一月丁亥、遣草壁皇子訊惠妙僧之病、明日惠妙僧終、

〔親長卿記〕文明二年十二月廿六日、卯刻許已御命終、○後花園

〔伏見上皇御中陰記〕文保元年九月三日、寅刻法皇有御事、四日、今日有御葬禮事、

〔資益王記〕文明十四年五月四日、民部卿來、眞乘寺御事切云々、仍禁裏并親王御方御服之事談合、

〔基量卿記〕貞享二年二月廿二日、只今御事切○後西院之由也、

〔類聚名義抄五山和ホツ〕崩。此明反シヌ帝